

0 理念・目的・教育目標

進捗状況報告

総合政策学部では2008年度において、2009年度開設予定の2つの新学科、都市政策学科と国際政策学科の文部科学省に対する認可申請を行った。これは、従来、総合政策学科にあった3専攻フィールドの中から、都市政策フィールドと国際発展政策フィールドを学科として独立させることによって、学部の研究教育をいっそう充実させるとともに、学部教育の特色である総合性・学際性に深い専門性を持たせることを目的としている。それに伴い、2009年度からの実施を念頭において、大幅なカリキュラムの改編作業を行った。学科の専門性と学部全体での学科横断的な学びを統合し、総合政策学部本来の教育理念を十分に反映させたカリキュラムとなっている。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

総合政策学科は、学部理念である「自然と人間との共生、人間と人間との共生」に直接関わる政策領域として、環境政策と言語文化政策をそれぞれ政策フィールドとして明確に設定し、さらに、共生の可能性を探求する公共政策ひとつの政策フィールドに掲げ、3つの政策フィールドからなる学科として再編成される。これによって、総合政策学科は自然・人間・共生という学部の根幹となるテーマを扱う学科として位置づけられる。同時に、総合政策学科の開講科目は、学部の学生全体に開かれているので、各専門の政策フィールドにおける研究と総合政策学科の提供科目とを合わせて履修することにより、総合性と専門性を同時に深めていくことができる。

学内第三者評価

総合政策学部は、学部開設以降、メディア情報学科の開設に始まり、2009年度からは都市政策学科、国際政策学科を開設し、大幅なカリキュラムの改編作業がなされたことは認められる、それによって総合政策学科の目的・教育目標がどのように変化するかについての積極的な記述が望まれる。それを踏まえて、学部の理念・目的等の見直しが行われる2009年度には、再度、本来の総合政策学部の理念・目的等の再検討が必要となる。とりわけ、「問題解決の視点つまり政策の総合性とは何か」を改めて問い直す必要がある。

「6.1カリキュラムの編成」に示された認証評価の結果において「学部の理念・目的に沿って、幅広い領域の知識を持たせる人材育成に向けた種々の教育実践は評価できるが、それによって逆に、学生の専門性がイメージしにくくなるので、学生に理念・目的を明確に理解させる工夫が必要である。」と記述されていることに注意されたい。

なお、学外委員からは以下の意見があった。

理念・目的・教育目標は、具体的かつ明確に示されている。「総合性・学際性」に深い「専門性」を持たせることを目的として、2009年度に4学科体制にするための準備が進められているが、どのようなカリキュラムを準備し、具体的にどのような能力を身につけた学生を養成するのか、今後明らかにすることが望まれる。キャンパス・ミーティングのような特色ある試みが、さらに実現されることが期待される。